

2年生ブックトーク図書紹介

11月2日に「秋のしぜんとあそぼう」というテーマでブックトークをしました。落ち葉や木の実を使った遊びに関係する本を紹介しました。



『日本どんぐり大図鑑』徳永桂子/偕成社
「どんぐり」とはじつはいろいろな別の種類の木の実をひっくるめたいいかたです。今ひろったどんぐり…どの木から落ちたものかわかりますか？この図鑑を使えば大丈夫。実物大の実が目次に載っているので、ひろったどんぐりから、木の名前、葉っぱの形から木の全体像まで全部わかります。日本で観察できるどんぐり全40種を紹介する図鑑。

『しぜんに タッチ！おちばであそぼう』

大久保茂徳/ ひさかたチャイルド

秋の林にいくと、色とりどりの落ち葉やいろいろな木の実を拾うことができます。ひろったおちばで遊んじゃおう！

おちばを使ったさまざまな遊びをたくさんの写真で紹介する科学絵本を読み聞かせしました。



『秋の草花あそび』『木の葉であそぼう』

おくやまひさし 指導 /ポプラ社

『やってみようたのしい伝承あそび秋から冬の草花あそび』

菱田清和 監修/学習研究社

秋の草花や木の葉であそぼう！ゲームがなくてもおもちゃがなくても、外には楽しく遊べるものがいっぱいあります。拾った落ち葉や木の実を工夫していろいろなものにしてみましょう。かんたんにあそべる例がたくさん載っています。

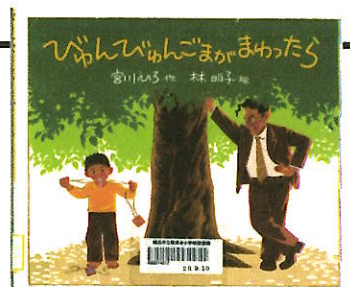
『びゅんびゅんごまがまわったら』

宮川ひろ 作・林明子 絵/童心社

かえで小学校には運動場の横に自然の林のような遊び場があります。子どもたちはその遊び場が大好きだったのですが、ある時怪我人が出てしまい、カギがかけられ遊べなくなってしまいました。また遊び場をあけてほしいと頼みに来た子どもたちに、校長先生は問題を出します。みんなはその問題をクリアして遊び場をあげてもらえるでしょうか。

かえで小学校の子どもたちは、自然を使った遊びを沢山知っています。

みなさんも一緒にやってみませんか？



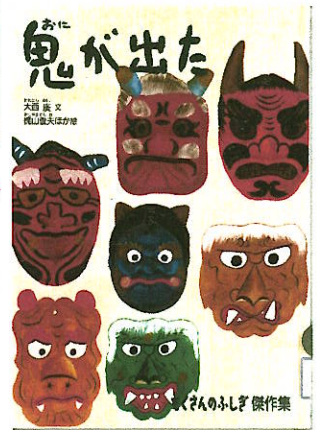
2年生ブックトーク図書紹介 テーマ「季節を感じよう 大寒・節分」

2月の行事「節分」にちなんだ本の紹介を、ブックトーク形式でおこないました。「節分」について、定番の悪い鬼、意外ないい鬼…節分のことが載っている本や物語に出てくる様々な鬼を紹介しました。



『しぜん観察せいかつ探検 2月のこども図鑑』
フレーベル館

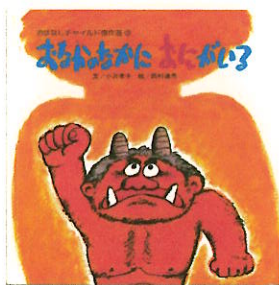
2月ってどんな月？どんな出来事があったの？という行事のはなしから寒い冬の季節のはなしまで、情報がたくさん！このなかから「せつぶんって、なんですか？」を紹介しました。



『鬼が出た』

大西廣 文/福音館書店

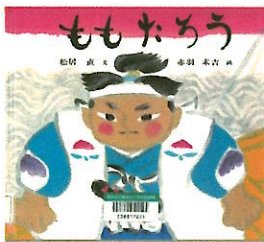
鬼ってなあに？ おにごっここの鬼も「本物の鬼」？ 昔の節分はどういうふうだったの？ 鬼にまつわるあれこれのっています。



『おなかのなかにおにがいる』小沢孝子 作/西村達馬 絵
ひさかたチャイルド

今日は節分。豆をまいて、悪いおにを追い出す日です。みんなのおなかの中にいるのは、どんなおにでしょう。めんどくさがりや、くいしんぼう、なきむし、へそまがり…etc.etc みんなは無事に自分のなかの悪いおにを追い出すことができるでしょうか。

節分のおはなしとして読み聞かせをしました。



『ももたろう』松居直 文/赤羽末吉 絵/福音館書店

『だいくとおにろく』松居直 再話/赤羽末吉 絵/福音館書店

『いっすんぼうし』石井桃子 文/秋野不矩 絵/福音館書店

おにといえば、人々を困らせる困ったものというイメージが強いです。おにが出てくるむかしばなしの中で代表的なものを紹介しました。



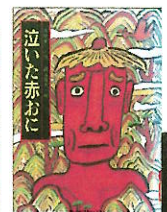
『島ひきおに』山下明生 作/梶山俊夫 絵/偕成社

『泣いた赤おに』浜田広介 作/梶山俊夫 絵/偕成社

『ソメコとオニ』斉藤隆介 作/滝平二郎 絵/岩崎書店

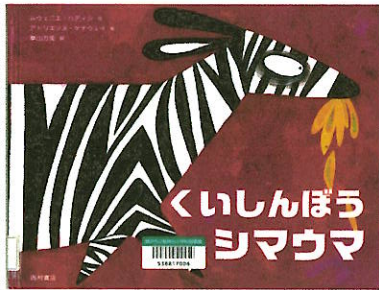
『ゼラルダと人喰い鬼』トミー・ウンゲラー 作・絵/評論社

人間と仲良くなりたいおに、ちょっとまぬけなおに、外国のおに…創作された物語の中のおには様々です。「おにってこういうものでしょ？」という枠にはまらない絵本を紹介しました。



2年生ブックトーク図書紹介 テーマ「民話にふれてみよう」

国語の単元「スーホの白い馬」にちなんだ本の紹介を、ブックトーク形式でおこないました。スーホの白い馬はモンゴルの民話です。民話には話型があり、「スーホの白い馬」は「馬頭琴の始まり」について説明するお話にもなっています。スーホと同じ「〇〇の始まり」の話型の民話を中心に紹介しました。



『くいしんぼうシマウマ』

ムウェニエ・ハディシ・文/西村書店

ケニアの昔ばなし。昔々、世界中の動物はみんな「うすぼけたなさけない色」でした…。動物たちがどのようにして今の色になったのかの始まりのお話。

『うさぎのみみはなぜながい』北川民次 文・絵/福音館書店

メキシコの昔ばなし。体が小さいせいで、他の動物にいじめられているうさぎが「わたしをもっと大きくしてください」と神様にたのんだら、神様の出した条件は…。うさぎの耳がどうしてあんなに長くなったのかのお話。



『ふるやのもり』瀬田貞二 再話/田島征三 画/福音館書店

日本の昔ばなし。おじいさんとおばあさんが話しています。よのなかでどろぼうよりもおおかみよりも一番こわいもの、それは「ふるやのもり」!? 「ふるやのもり」とは古い家の雨もりのことですが、それを知らないどろぼうとおおかみは…
すったもんだの末に、サルの顔が赤くなったひみつもわかります。

『とらとほしがき』パク・ジェヒョン 再話・絵 光村教育図書

韓国の昔ばなし。民話には伝わっている場所は違うのに、不思議と似ているお話があります。これは『ふるやのもり』とよく似ているお話です。読み比べてみても楽しいかもしれません。



『こども世界の民話(上)』実業之日本社

内田莉莎子・君島久子・山内清子・著

読んでも楽しい、覚えて語っても楽しい世界の民話がたくさん紹介されています。この中からブラジルの民話「ねこが、ごはんのあとで顔をあらうわけ」を紹介しました。

2年生ブックトーク図書紹介 テーマ「学校の一年をふいかえろう」

「低学年」としての時間もあとわずか。4月からみんなは3年生(中学年)として1・2年生の手助けをする立場になりますね。2年生の1年や学校生活に関係する本や物語を紹介しました。



『小学校の生活』はまのゆか 作/学研

小学1年生の1日、1年、小学校6年間の生活が、オールカラーのイラストでわかる絵本。「こんなことをやったね、中学年になるとこんなことも始まるね」今までした活動、これからのこと、1冊でまるごとわかる絵本。

『すごいね!みんなの通学路』ローズマリー・マカーニー 文/西村書店

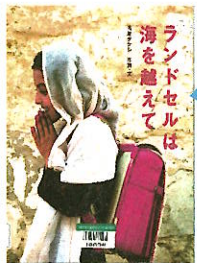
みなさんの通学路に危険な場所がありますか? 世界のさまざまな地域に住む子どもたちの通学路はどうでしょう。自然災害や、川の急流、けわしい山道、高いがけにも負けず、毎日懸命に学校へとむかう世界中の子どもたちの写真で構成された絵本。「学校に行きたい」「学ぶのは楽しい」「友達にも会える」そんな彼らの気持ちが伝わってきます。



『子どものマナー図鑑』

峯村良子 著/偕成社

こんなときどうする? 友だちのおつきあいや、学校生活では、おたがいにほんの少しずつ気をつけようまくいくことがたくさんあります。たのしいおつきあいをするための基本的なマナーを確かめましょう。



『ランドセルは海を越えて』内堀タケシ 写真・文/ポプラ社

みなさんが当たり前持っているランドセルですが、他の国の学校にいけない子どもたちにとっては、ランドセルは学校で学ぶこと、つまり「未来」へつながる希望です。ランドセルをアフガニスタンに贈る活動を紹介した写真絵本。

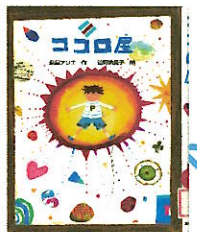
『がっこうかっぱのイケノオイ』山本悦子 作/童心社

今日の朝の会のでみんなの前でしゃべる「スピーチ」で、アンドレくん(日本語が上手じゃないんだ)は、「カッパ、ミタ」といながらカエルをみせて、みんなに笑われた。帰りにも池をじっと見て「カッパ!」っていうから「カエルでしょ?」ってスルーしようとしたのに、アンドレくんの指の先には本当にカッパが!? カッパって飼えるかな?



『ココロ屋』梨屋アリエ 著/文研出版

「ココロを入れかえなさい。」友だちとけんかをしてまた先生に叱られたぼくは教室からにげだした。そんなぼくの目の前にココロ屋があらわれて、「さて、どのココロにいたしましょうか。」一えっ、ココロって、取りかえられるの? ためしにココロ屋から『やさしいココロ』をもらって自分のココロを取りかえてみたら...



『はれときどきぶた』矢玉四郎 著/岩崎書店

毎日日記をつけている則安くん。ある日お母さんにその日記を盗み読みされていることに気が付き、お母さんを驚かそうとでたらめを書いてみました。「お父さんがえんぴつの天ぷらを食べました」「金魚が部屋をとびまわりました」でもそれが全部本当のことになってしまい...!? はれぶたシリーズ一作目。

